報　告

大学入試制度に関する国際セミナー

研究部教授（併）　清　水　留三郎
（情報処理研究部門）

アメリカ州高等教育機構（Inter-American Organization for Higher Education）とアルゼンティン国立大学長協会（Consejo de Rectores de Universidades Nacionales）によって，「大学入試：中等教育から高等教育への進学過程」と題する国際セミナーが，1983年8月10日から3日間ブエノス・アイレスの証券取引所会議室で開催された。上記の機構は，カナダのクェベックに事務局を置き，南北両アメリカ州の各国の大学長協会から選出されたそれぞれ数名の会員で構成され，大学人による南北の交流を促進するために，アメリカ合衆国の財界等から寄附を募って，いくつかの事業を進めているようである。その事務局長が，在モントリオール日本国総領事を通じて，日本からも講師を派遣するよう要請して来た。外務省から文部省を通じての依頼で，大学入試センターの研究部から参加することになり，このセミナーに派遣された。

セミナーには，アルゼンティンの国立大学長等大学関係者が参加し，来賓の文部大臣 Licciardo 博士から祝辞があった。各国からの講師はつぎの通りである（発表順）：

カナダ	経済開発協力機構 Cazalis 氏
合衆国	Midwestern 大学（テクサス）Rodriguez 学長（経済学）
ブラジル	ブラジリア大学 Senta 教授
カナダ	York 大学（トロント）Anisef 教授（社会学）
イタリア	ミラノ工科大学 Dadda 教授（計算科学）
ソ連	ユネスコ Beridze 博士
アルゼンティン	Comahue 大学（Neuquen）Dolcini 副学長（医学）

カナダ，合衆国，ブラジルからの講師は，いずれも経済不況下の就職難で，大学への入学志願者の減少と退学者の増加が起こり，大学の経営が困難に陥っている状況等を報告した。カナダの

Anisef 教授は，志願者世代を対象にしたアンケート調査に基づいて，大学入学の門が広いことが歓迎されていることの紹介があった。イタリアの Dadda 教授は，独，仏，英，伊各国の資格試験に基づく大学入試制度を報告した。私は，日本の教育制度，公立高校の県単位の入試制度，進学率，及び卒業率，大学や大学院の数，国公立大学の入学者の共通1次試験と2次試験による選抜と私立大学の選抜制度，進学率，卒業率，公私立大学への国庫からの補助，奨学金貸与制度について，「文部統計」の数値を引用しながら紹介した。ソ連の Beridze 博士は，大学の選抜試験，軍や職場の責任者による推薦制度，大学教授が高校に出向いて大学の紹介をする制度等を報告した。アルゼンティンの Dolcini 副学長は，大学へ入学を許可されたのに辞退する者の割合が，学部系統によって異なる状況を紹介した。

大学入学の門が広い国から狭い国への順に講演があった形式に近かったが，日本やソ連の制度がアルゼンティンの大学関係者にほとんど知られていないことも手伝ってか，日本の大学生の卒業率には羨望(？)の嘆声が聞こえ，ソ連の推薦制度にはざわめきが起こった。合衆国で雑誌 Time の日本の教育制度特集号が発行された直後に，合衆国を脅かす先端技術で知られる日本の大学入試制度について，アルゼンティンの大学関係者に紹介する良い機会が得られた。

写真左：大学長協会長　中：文部大臣　右：IOHE 事務局長